

原木・製品生産のアンケート結果等 (中部地区)

令和2年10月
林野庁

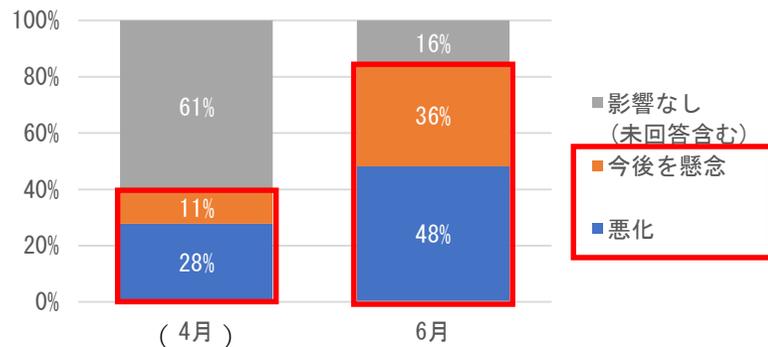
1 原木生産（全国）

素材生産事業者を対象に6月の状況について調査（回答数256）を実施したところ（4月の回答数は228）

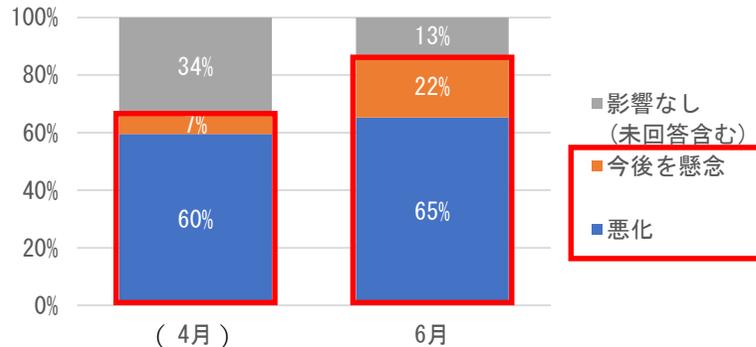
- ・ **出荷数量の動向**について、**悪化または今後を懸念していると回答した事業者が約8割**であり、4月から4割増加。
- ・ **販売価格の動向**について、**悪化または今後を懸念していると回答した事業者が約9割**であり、4月から2割増加。
- ・ 8月の時点では需要の回復が見込めず、工場の減産、原木価格の下落が続くことを懸念。

○出荷量・販売価格状況

■ 出荷数量の動向（前年同月比）



■ 販売価格の動向（前年同月比）



■ 8月時点の情報

【現状】

- ・ 製材工場等における原木の受入制限や原木価格の下落を受け、販売量は減少。
- ・ 一方、7月豪雨の影響により、九州地方では出材量が減少し原木価格が反発。
- ・ 燃料用材の需要は堅調。

【見通し】

- ・ 先行きは不透明。
- ・ 需要の回復が見込めず、工場の減産、原木価格の下落が続くおそれ。
- ・ 豪雨の影響による原木価格の反発は一時的とみられる。

1 原木生産（全国）（つづき）

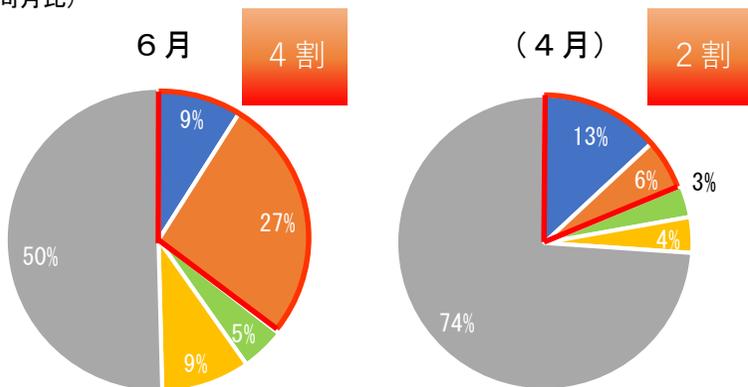
- ・生産状況について、減産していると回答した事業者が約4割であり（4月比2割増）、減産割合も「20%以上」が増加している。
- ・雇用確保のため素材生産の代替として、造林・保育へ移行（51%）、皆伐から間伐へ移行（38%）している。
- ・また7月以降、約3割の事業者が減産を実施予定と回答。

○生産状況、雇用

■生産状況（前年同月比）

- 減産 20%未満
- 減産 20%以上

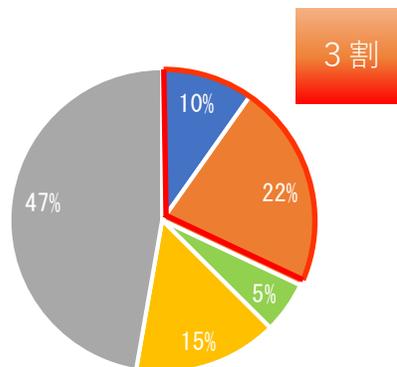
- 増産
- 変更したいが困難
- 増減なし（未回答含む）



■7月以降の生産状況（予定）（前年同月比）

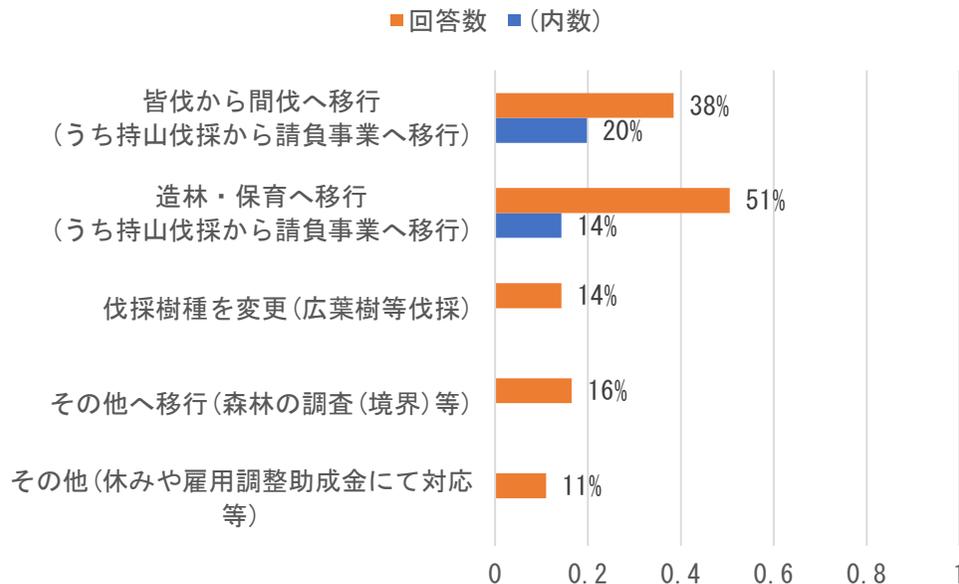
- 減産 20%未満
- 減産 20%以上

- 増産
- 変更したいが困難
- 増減なし（未回答含む）



■作業の移行状況

（減産を実施している事業者の回答）（複数回答有）



■8月時点の情報

【現状】

- ・販売状況の悪化や7月の長雨（豪雨）の影響に伴い、生産量は減少。
- ・生産に伴わない作業へ移行し雇用を確保している。

【見通し】

- ・先行きは不透明。
- ・経営状況の悪化が懸念される。

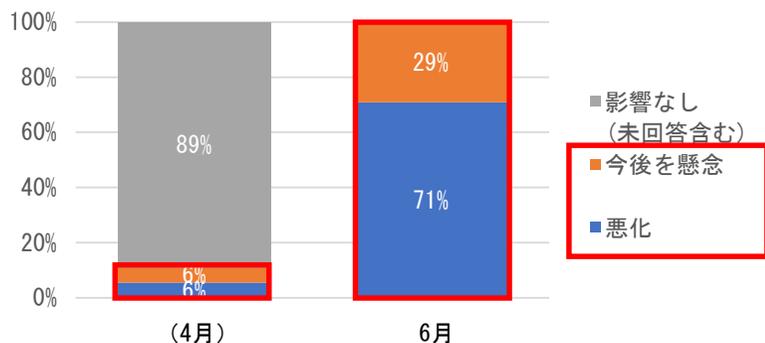
1 原木生産（中部地区）

素材生産事業者を対象に6月の状況について調査（回答数56）を実施したところ（4月の回答数は46）、

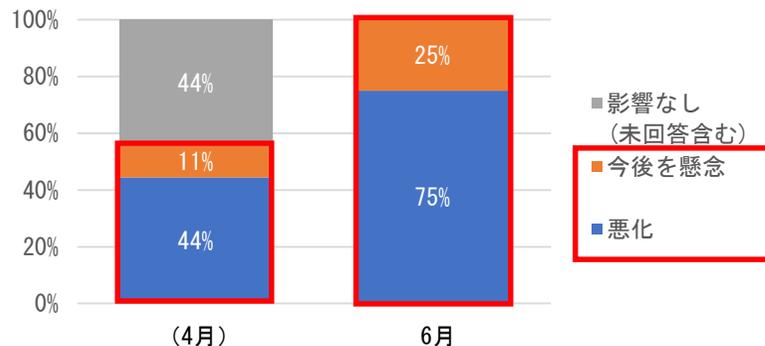
- ・ **出荷数量の動向**について、**悪化又は今後を懸念と回答した事業者が約10割**であり、4月から9割増加。
- ・ **販売価格の動向**について、**悪化又は今後を懸念と回答した事業者が約10割**であり、4月から4割増加。
- ・ 8月の時点では、製材工場等の入荷制限により**原木価格が下落**。今後も製品需要の回復が見えない。

○原木の出荷・販売状況、売上げの動向

■ 出荷数量の動向（前年同月比）



■ 販売価格の動向（前年同月比）



■ 8月時点の情報

【現状】

- ・ 製材工場等の受入制限、原木価格の下落が見られる。

【見通し】

- ・ 製品需要の回復が見えず、原木価格の回復は見込めない。

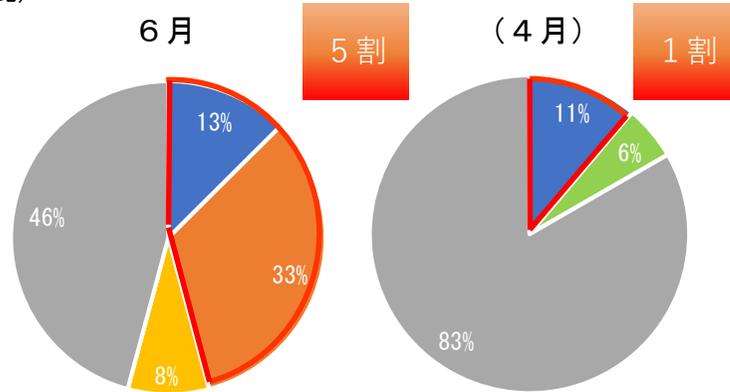
1 原木生産（中部地区）（つづき）

- ・ 生産状況について、減産していると回答した事業者が約5割であり、（4月比4割増）、減産割合も「20%以上」が増加している。
- ・ 雇用確保のため、素材生産の代替として造林・保育へ移行（36%）、皆伐から間伐へ移行（36%）している。
- ・ また、7月以降、約5割の事業者が減産を実施予定と回答。
- ・ 8月の時点でも生産調整が続いており、原木価格の回復がなければ秋以降の出材がさらに減少する可能性がある。

○原木の生産状況、作業の移行状況

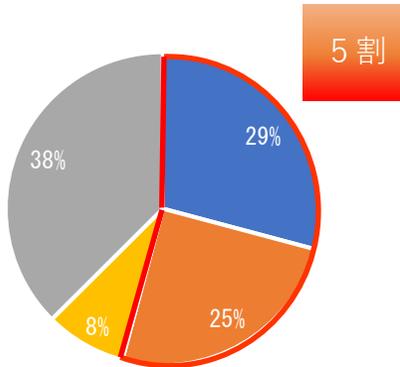
■生産状況（前年同月比）

- 減産 20%未満
- 減産 20%以上
- 増産
- 変更したいが困難
- 増減なし（未回答含む）

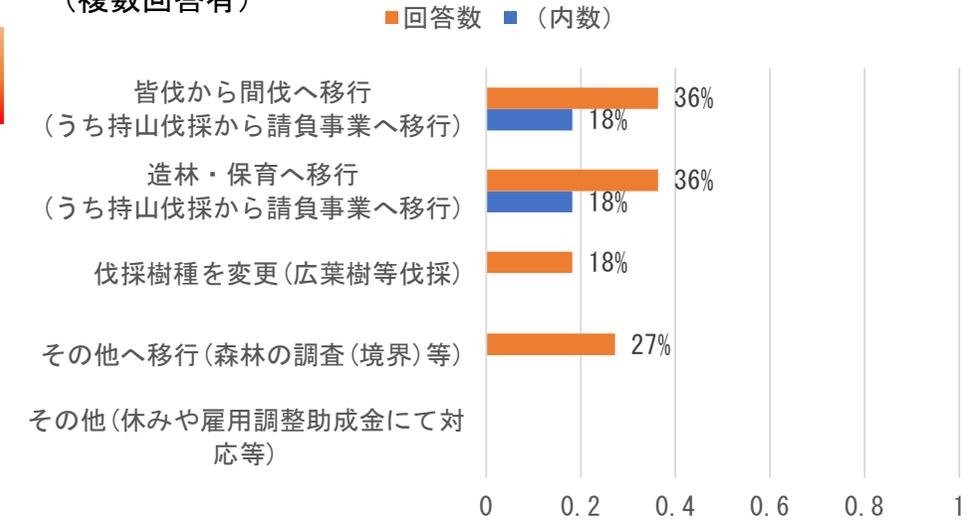


■7月以降の生産状況（予定）（前年同月比）

- 減産 20%未満
- 減産 20%以上
- 増産
- 変更したいが困難
- 増減なし（未回答含む）



■作業の移行状況（減産を実施している事業者の回答）（複数回答有）



■8月時点の情報

【現状】

- ・ 工場の減産に対応した生産調整（素材生産を伴わない作業への移行）を実施。
- ・ 7月の豪雨のため出材量が減少。

【見通し】

- ・ 原木価格の回復がなければ秋以降の出材はさらに減少する可能性がある。

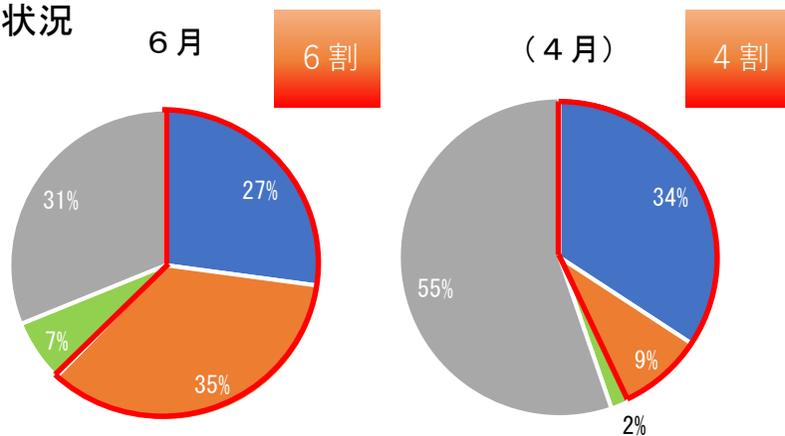
2 製材（全国）

全国の大手の製材工場を対象に6月の状況について調査（回答数199）を実施（4月の回答数は219）。

- ・ 約6割の工場が製品の減産を実施しており（4月比2割増）、減産割合も「20%以上」が増加している。
- ・ このため、約3割の工場が原木の入荷制限を継続（4月比1割増）。
- ・ 需要の先行き不透明な状況により、入荷制限は継続される見込み。

○製品の生産状況

- 減産 20%未満
- 減産 20%以上
- 増産
- 増減なし
(未回答含む)



■ 8月時点の情報

【現状】

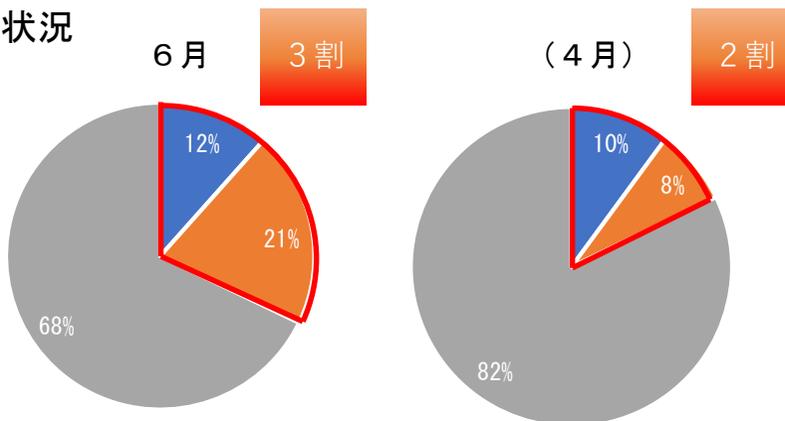
- ・ 製品生産・販売ともに全体的に減少傾向
- ・ 製品価格も下落傾向。
- ・ 特に梱包材・パレットやイベント等の仮設資材の需要が落ち込む。
- ・ ホームセンター向け製品の販売は増加。

【見通し】

- ・ 先行きは不透明。
- ・ 秋以降、多少需要が回復しても限定的で、現状の傾向が続くとみられる。

○原木の入荷状況

- 制限 20%未満
- 制限 20%以上
- 制限なし
(未回答含む)



■ 8月時点の情報

【現状】

- ・ 減産に伴い一部で入荷制限を実施。
- ・ 供給側の生産調整や天候の影響による出材量の減少により、原木調達が困難となる地域もみられる。

【見通し】

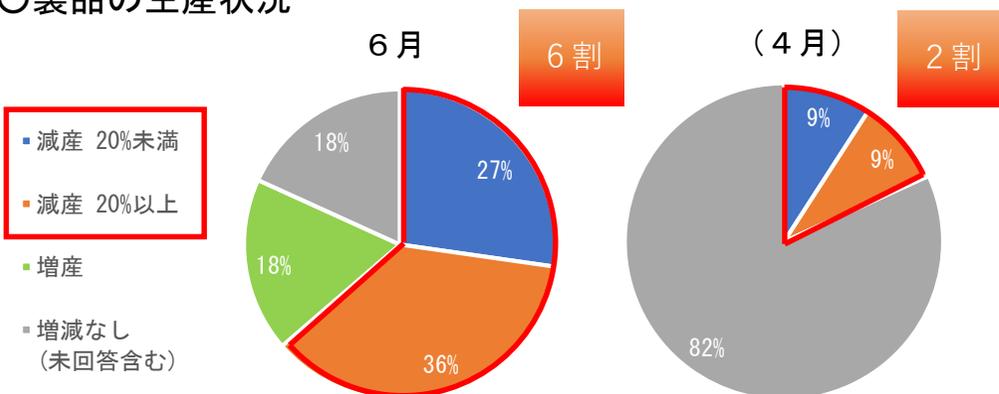
- ・ 先行きは不透明。
- ・ 販売状況によっては入荷制限を継続。

2 製材（中部地区）

中部地区の大手の製材工場を対象に6月の状況について調査（回答数11）を実施（4月の回答数は11）。

- ・約6割の事業者が減産していると回答しており（4月比4割増）、減産割合も「20%以上」が増加している。
- ・このため、約3割の工場が原木の入荷制限を継続。
- ・8月の時点では、製品生産の受注は減少傾向であり、先行きは不透明。

○製品の生産状況



■ 8月時点の情報

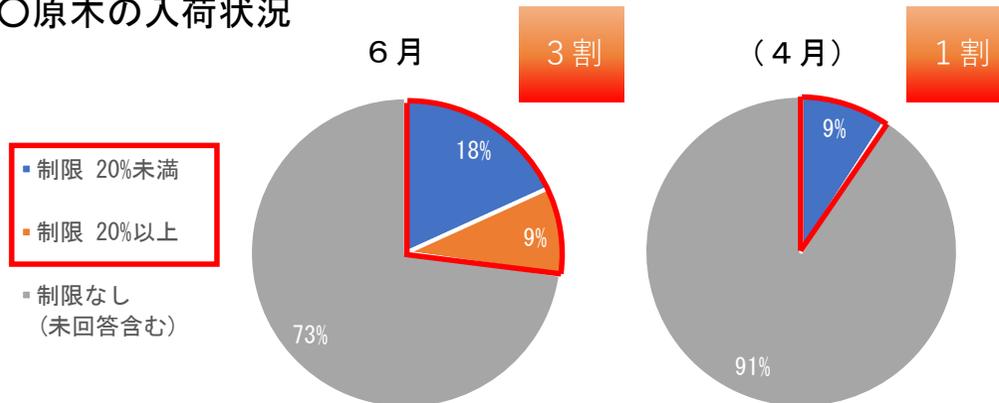
【現状】

- ・製品生産は順調に行っているが受注は減少傾向。
- ・販売価格は下落。

【見通し】

- ・先行きは不透明。
- ・住宅需要減により、販売量の減少が予想される。

○原木の入荷状況



■ 8月時点の情報

【現状】

- ・順調に入荷しているが、供給側の出材量の減少を懸念。

【見通し】

- ・9月以降は例年どおり出材されると考えられるが、販売状況を見ながら調達する必要。

3 合板（全国及び中部地区）

合板工場を対象に6月の状況について調査（回答数31）を実施（4月の回答数は27）。

全国の状況として、

- ・合板の生産状況について、減産していると回答した事業者が約8割であり（4月比約2割増）、減産割合も「20%以上」が増加している。
- ・このため、約5割の工場が原木の入荷制限を継続（4月比1割増）。

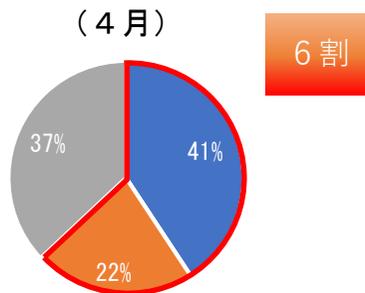
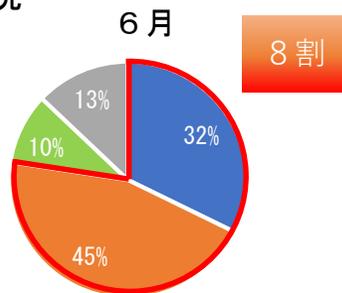
中部地区においては、前年比2～3割程度の減産と、それに伴う入荷制限が続いている。

○製品の生産状況

- 減産 20%未満
- 減産 20%以上

■ 増産

■ 増減なし
(未回答含む)



■ 8月時点の情報【全国】

【現状】

- ・製品は前年比1～3割減産。
- ・販売も前年比2割程度減少しており、価格も下落傾向。

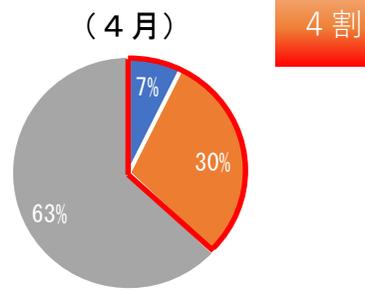
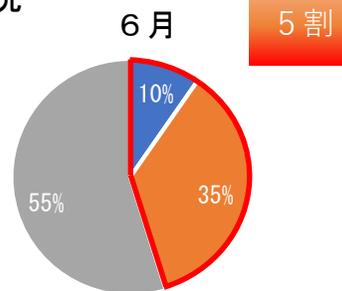
【見通し】

- ・先行きは不透明。
- ・秋まで需要減退が続く見通しであり、当面は減産を継続。

○原木の入荷状況

- 制限 20%未満
- 制限 20%以上

■ 制限なし
(未回答含む)



■ 8月時点の情報【全国】

【現状】

- ・原木の受入制限を実施（前年比1～3割減）。
- ・一方、安定的に入荷を続けている工場もある。

【見通し】

- ・先行きは不透明。
- ・減産の継続に伴い、原木の受入制限を継続する見込み。

■ 8月時点の情報【中部地区】

【現状】

- ・前年比2～3割程度の減産。価格が15%程度下落。
- ・減産に伴い受入制限を実施。

【見通し】

- ・先行きは不透明。
- ・入荷制限を継続。

4 集成材（全国及び中部地区）

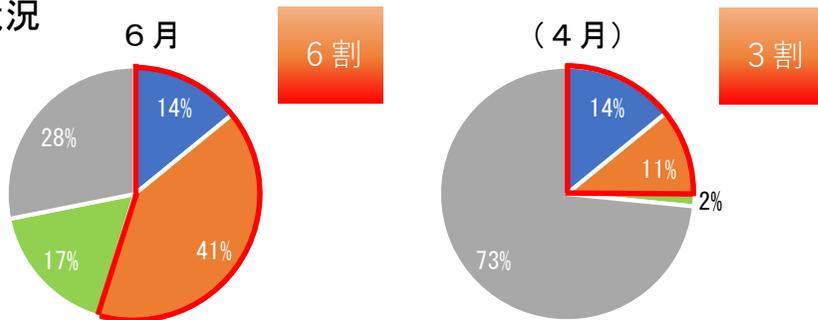
集成材工場を対象に6月の状況について調査（回答数64）を実施（4月の回答数は64）。
 全国の状況としては、

- ・集成材の生産状況について、減産していると回答した事業者が約6割あり（4月比約3割増）、減産割合も「20%以上」が増加している。一方、約2割の事業者が増産していると回答。
- ・このため約1割の工場が原木の入荷制限を継続。

中部地区においては、小中断面構造用集成材の受注低迷により生産調整を実施。先行きは不透明。

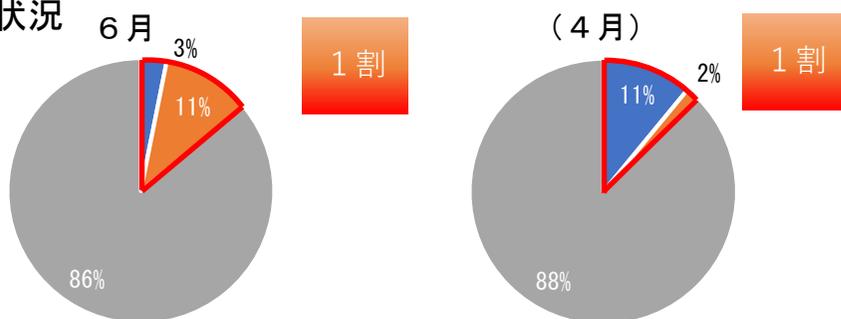
○製品の生産状況

- 減産 20%未満
- 減産 20%以上
- 増産
- 増減なし（未回答含む）



○原木の入荷状況

- 制限 20%未満
- 制限 20%以上
- 制限なし（未回答含む）



■ 8月時点の情報【全国】

【現状】

- ・製品は前年比2～3割減産。
- ・安価な輸入製品との競合により、製品価格が下落傾向。
- ・一方、非住宅物件向け（公共・民間）の構造用集成材の需要が増加しており、高い稼働率を維持している工場もある。

【見通し】

- ・先行きは不透明。受注増は期待できず、当用買いが続く見込み。
- ・一方、非住宅物件向けの需要増により、前年比3割増の受注を見込む工場もある。

■ 8月時点の情報【全国】

【現状】

- ・受注低迷のため入荷制限を実施。

【見通し】

- ・先行きは不透明。当用買いが続く見込み。

■ 8月時点の情報【中部地区】

【現状】

- ・受注低迷のため、生産調整を実施。小中断面構造用集成材の受注が低迷しているため、大断面集成材用のラミナを必要分のみ調達。

【見通し】

- ・受注の増加は期待できない。先行きが不透明のため、在庫を増やしてまで原木を調達できない。

資料：林野庁木材産業課調べ
 調査対象：全国の集成材工場

5 チップ（全国及び北海道地区）

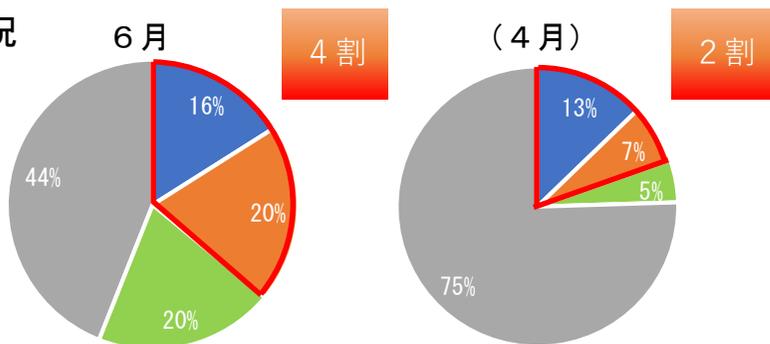
大手のチップ工場を対象に6月の状況について調査（回答数100）を実施（4月の回答数は102）。
 全国の状況としては、

- ・生産状況について、**減産**していると回答した事業者が**約4割**あり（4月比約2割増）、**減産割合も「20%以上」が増加**している。一方、2割の事業者が増産していると回答。
- ・**約1割**の工場が**原木の入荷制限を継続**（4月から微増）。

北海道地区においては、**パルプ用チップが減少**した分、**燃料用チップ生産**により生産量を確保している。

○製品の生産状況

- 減産 20%未満
- 減産 20%以上
- 増産
- 増減なし（未回答含む）



■ 8月時点の情報【全国】

【現状】

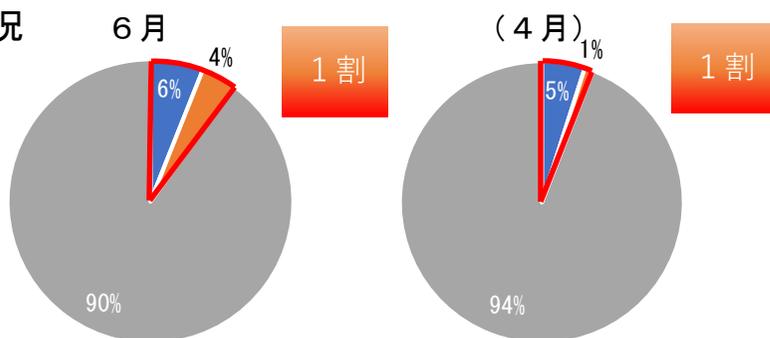
- ・製紙需要の減退により、パルプ用チップは針葉樹、広葉樹とも減産。
- ・燃料用チップの生産・販売は堅調。

【見通し】

- ・製紙は今後も厳しい減産が続く見込み。
- ・燃料用需要は継続。

○原木の入荷状況

- 制限 20%未満
- 制限 20%以上
- 制限なし（未回答含む）



■ 8月時点の情報【全国】

【現状】

- ・パルプ用原木の受入を制限している工場もある。
- ・燃料用原木は地域によってややひっ迫。
- ・合板用原木の一部がチップ用に利用されることもみられる。

【見通し】

- ・パルプ用原木は今後も受入制限を継続する見込み。
- ・木質バイオマス発電施設の増加により燃料用原木は地域によって、調達が一層厳しくなる可能性。

■ 8月時点の情報【中部地区】

【現状】

- ・紙の生産調整により、パルプ用チップの生産は前年比約3割減。原木入荷は前年比約2割減。

【見通し】

- ・製紙用は今後も厳しい見込み。

資料：林野庁木材産業課調べ

調査対象：全国のチップ工場（木材チップ生産量1万t/年以上）